



尾山台小だより

10月号

学校教育目標

「確かな学力を身に付け、心豊かにたくましく生きる児童の育成」
～明るい子、考える子、たくましい子～

〔尾山台小ホームページ〕<http://www.city.ageo.lg.jp/site/oyamadai-elementaryschool>

または、「上尾市」ホームページ→「上尾市立幼小中学校」→「尾山台小学校」をクリック



誰かのために 一生懸命になれる 素晴らしさ

校長 熊坂 由美子

今年の残暑は大変厳しかったですが、10月に入ると急激に朝夕は涼しくなり、秋の訪れを感じるようになりました。学校では、職員玄関や教室で飼っているスズムシが、綺麗な音色を響かせています。

先月の30日には、4年振りとなる入場制限のない運動会を開催することができました。ご家族の方、おや小応援団の方、学校運営協議会委員の方、卒業生など、多くの方にご参観いただきました。運動会当日までの環境美化、当日の係の仕事、PTA親子種目「綱引き」の企画から運営まで、大変お世話になりました。お陰さまで、子供たちの笑顔があちらこちらで見られる運動会となりました。

本番、子供たちは「緊張するなあ」と言いながらも、競技や演技に真剣に取り組んでいました。赤組と白組に分かれて勝敗のかかった競技では、同じ組の仲間と作戦を練りながら勝利を目指して協力していました。観戦している側も、応援団のかけ声に合わせて一丸となって応援していました。演技では、どの子も、自分の立ち位置を確認しながら、全体を意識して表現している真剣な様子が見られました。学年の演技を、みんなで成功させようという想いが伝わってきました。

運動会の前日にも、友達を想って頑張っているお子さんに出会いました。そのお子さんは、クラスみんなのために、運動会が終わったらメダルをプレゼントしようと、全員分のメダルを家で作ってきていました。「校長先生の分もあるので、どうぞ」と私にもくれました。一人で三時間もかけて作ったと聞き、なんて優しいお子さんなんだろうと大変感動いたしました。友達や先生のことを想って作ったメダルは、とても輝いて見えました。

ニュースでは、ノーベル生理学・医学賞を授賞されたお二人の研究者が紹介されました。「何百万人の命を救った」「mRNA 研究でコロナワクチンに貢献」という内容です。お二人の長期に渡る地道な研究のお陰でワクチンを短期間で実用化させることができたわけですが、授賞後のインタビューが心に残りました。

「賞をもらうために研究をしていたのではない。誰かの役に立つことだから研究を続けていたのだ。これからも、人の役に立つ研究を続けていきたい。」



運動会の話とノーベル賞の話とを、比較することではないことは分かっています。しかしながら、誰かのために想って自分にできることを精一杯行うという尊さは、同じだと思うのです。自分の力を、自分のためだけでなく、少しずつでも周囲のために使うことができる人は、輝いて見えます。おや小に、そんな素敵な人が沢山増えることを願います。そして、「ありがとう」や「笑顔」があふれる学校を、これからも目指してまいります。